

Editor's note

17

二年 年 ポ 二年
てよかったです、このメンバーに出会えてよかったですと心から思います。ありがとうございます。（見世梨沙）

18

今回、編 い
は。（五十嵐太郎）

委員 取材は は ま は な
るので、これでいいのかもしれません。（小野未千恵）

今回は学食特集と表紙・裏表紙を担当しました。段取りが悪くてバタバタしてしまったけれど、編集員のみんなのおかげで形になりました。ありがとうございます！（佐師智郁子）

今回は初めてのレビュー担当、レイアウトで慣れない所もありましたが、悩みながらも楽しくやれました。ありがとうございました。ありがとうございます。（佐師智郁子）

一年生が予想以上に入ってきててくれて、頼もしい限りでした。けれど、でしてしまったので、後期はもう少し余裕を持って活動できたらいいですね。

今回、酒蔵の記事作りを担当させていただきました。2年でありながら初めて飛翔の記事作りに参加させてもらひました！初めて取材に行き、記事を作り、みんなの記事を集め一つのものが完成するというのうございし陽

19

材に行くなど、貴重な体験ができて楽しかったです☆（井上朋子）

長かった……！この経験で得られたものは、先輩からの優しさとパソコンの早打ちです。文章力はおいおいということで、お許しを。（田中邦洋）

Editor's note

今回、私
にゆっくり読書できました。（森あやみ）

先輩方や取材を担当させて頂いた坂田先生のサポートのおかげで、とても楽しく活動できました。
次号ではもっと皆さんのお役に立てるよう頑
張
ります。（森あやみ）

難しかったけど、楽しかったです！ 人々
に申し上げます。（稻村円）

全く知らない人に会って、取材をするというのはとても緊張しましたが、いい経験になりました。
教養ゼミのく
つ
つ

表紙作りに必要なのはセンスではなく、技術でした……（川村真弓）

酒蔵歩きとOG紹介を担当しました。初めての取材で
しました。話を聞いた時の感動を、そのまま伝えられるような記事が書けるようになりたいです。飛翔は
先輩・後輩の仲が良く楽しいです。（桑田雅美）

今回は主に写真を担当させて頂きました。下手な自分でしたが、メンバーの皆さんのが快く使ってく
れたことは素直に嬉しかったです。取材では酒祭りの企画に入り、実際に街を歩いたり実行委の会合
に臨席させて頂いたりと、貴重な体験をさせてもらいました。いい先輩・同級生に恵まれて、大学生

教職員・事務の方々

飛翔委員としては、あまり皆さんの方にはなれなかったですが、学生編集委員のみなさんの頑張り
に心から感謝です。積極的に取材し、ますますよい飛翔にしていこう！とする皆さんの意欲がすばら
しいと思います。（窪田幸子先生）

4
て大変勉強になりました。小生と同じ立場の1年生諸君にとっても本号は非常に役立つと思います。
皆さん、ご苦労様でした。（石田敦彦先生）

編集委員のみなさんの
い楽しみにしています。（岩佐浩子さん）

編集のお

今回初めて飛翔の編集のお手伝いをさせていただきましたが、編集委員のみなさんの企画力、取材
力そして書き上げる力は素晴らしいの一語です。（中本知範さん）



広島大学 総合科学部

卷之三

卷之三十一

1944-1945
1945-1946
1946-1947
1947-1948
1948-1949
1949-1950
1950-1951
1951-1952
1952-1953
1953-1954
1954-1955
1955-1956
1956-1957
1957-1958
1958-1959
1959-1960
1960-1961
1961-1962
1962-1963
1963-1964
1964-1965
1965-1966
1966-1967
1967-1968
1968-1969
1969-1970
1970-1971
1971-1972
1972-1973
1973-1974
1974-1975
1975-1976
1976-1977
1977-1978
1978-1979
1979-1980
1980-1981
1981-1982
1982-1983
1983-1984
1984-1985
1985-1986
1986-1987
1987-1988
1988-1989
1989-1990
1990-1991
1991-1992
1992-1993
1993-1994
1994-1995
1995-1996
1996-1997
1997-1998
1998-1999
1999-2000
2000-2001
2001-2002
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027
2027-2028
2028-2029
2029-2030
2030-2031
2031-2032
2032-2033
2033-2034
2034-2035
2035-2036
2036-2037
2037-2038
2038-2039
2039-2040
2040-2041
2041-2042
2042-2043
2043-2044
2044-2045
2045-2046
2046-2047
2047-2048
2048-2049
2049-2050
2050-2051
2051-2052
2052-2053
2053-2054
2054-2055
2055-2056
2056-2057
2057-2058
2058-2059
2059-2060
2060-2061
2061-2062
2062-2063
2063-2064
2064-2065
2065-2066
2066-2067
2067-2068
2068-2069
2069-2070
2070-2071
2071-2072
2072-2073
2073-2074
2074-2075
2075-2076
2076-2077
2077-2078
2078-2079
2079-2080
2080-2081
2081-2082
2082-2083
2083-2084
2084-2085
2085-2086
2086-2087
2087-2088
2088-2089
2089-2090
2090-2091
2091-2092
2092-2093
2093-2094
2094-2095
2095-2096
2096-2097
2097-2098
2098-2099
2099-20100

Figure 10. The effect of the number of hidden neurons on the performance of the proposed model.

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (310) 206-6500 or via email at mhwang@ucla.edu.

Figure 10. A 3D visualization of the reconstructed model of the 1999-2000 winter season. The visualization shows the spatial distribution of snow depth across the study area, with colors representing different depth ranges. The visualization highlights the complex terrain and the significant spatial variability of snow accumulation.

1996-1997
1997-1998
1998-1999
1999-2000
2000-2001
2001-2002
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024

For more information about the project, visit www.earthobservatory.nasa.gov.

Figure 10. A 3D visualization of the learned latent space. The latent space is a 100-dimensional vector space where each dimension corresponds to a latent variable. The visualization shows a 3D plot of the latent space, with points colored according to their latent variables.

Figure 10. A 3D visualization of the simulation results showing the evolution of the system over time. The visualization shows a complex, multi-colored pattern of particles representing the state of the system at different time steps. The colors represent different values or states of the variables being simulated.

19. *Wolffian ducts* (Wolffian tubules) (Fig. 19)

新嘉坡總理司理事會
新嘉坡總理司理事會
新嘉坡總理司理事會